

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0971200365		
法人名	社会福祉法人京福会		
事業所名	グループホーム安暮里		
所在地	栃木県那須塩原市鍋掛1416-3 (電話) 0287-73-2880		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7人 7人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算6.5人 常勤7人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費-15,000円 ・共益費-10,000円 ・おむつ代-15円~150円/1個
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	4 名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団京愛会黒磯病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当グループホームは、敷地が広く周囲を畑や林に囲まれ、林には散策コースになっている遊歩道があるなど入居者にとって癒される環境の中にある。職員の目配り気配り等について職員間で統一が図られており、職員の入居者との接し方などは穏やかである。また、入居者が職員と一緒に食事を用意する様子など家庭的な雰囲気が見られた。運営推進会議には構成メンバー以外の区長や駐在所にも参加を呼びかけるなど、地域の一員としての自覚を持っているホームである。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については運営推進会議に提示して意見をもらい、改善できるところから改善の取り組みに努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員に提示し、職員会議で話し合いのうえ、最終的に管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の構成メンバーは家族(各ユニット2名)、地域包括支援センター職員、行政職員、地域住民、民生委員となっている。また、構成メンバーではない地区区長や駐在所のおまわりさんに呼びかけをして参加してもらっている。会議ではホーム内外における諸課題について積極的な討議がなされ、課題解決を図る取り組みが行われている。市とは開設以来連携が図られている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回必ずある家族の面会時に声かけをして入居者の状況を伝えたり、意見・要望を聞いている。ホーム便り「あぐり通信」を月1回発行している。苦情解決体制を整えており、苦情受付責任者、市、国保連等の連絡先及び法人の第三者委員が重要事項説明書に明記されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在自治会に未加入であるが、運営推進会議には区長に参加してもらっているので、これから区長に正式な構成メンバーになってもらうこと及び自治会加入に向けて働きかけていくよう検討している。近隣の方々の日常的な交流は少ないが、今後更にホームの行事等に積極的に呼びかけて交流が図れるようにしていくことを検討している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念として「入居者一人ひとりが地域の方々と関わりながら、その方の生活リズムを大切にしたい穏やかな暮らしの中で幸せだと思える施設を目指す」を掲げ実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月第2月曜日に開催する全体職員会議で理念について確認し合い、理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣地域との交流は少なく、散歩時に挨拶をする程度である。近所の中学生のボランティアを積極的に受け入れ、交流を図っている。自治会には加入していないが区長が運営推進会議に出席している。	○	運営推進会議に区長も参加しており、地域との関係も徐々に連携が図られてきているという現状である。今後更に自治会への加入やイベント等に積極的に参加するなど交流を深めていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、運営推進会議に提示して意見をもらい、改善に取り組んでいる。今回の自己評価は職員会議で話し合い、意見交換をして最終的に管理者がまとめた。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、行政職員、地域包括支援センター職員、地域住民、民生委員などが構成メンバーで、その他、必要時に区長や駐在所に参加を呼びかけて参加してもらっている。会議は2ヶ月に1回開催されており、ホーム側から諸課題を投げかけ、積極的な意見交換がなされている。	○	必要時に参加してもらっている自治会の区長等について正式に委員として参加してもらったり、自治会加入を検討したりしながら、運営推進会議を地域との連携の充実に向けた取り組みに活かしていくことなどにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設以来、市との連携が図られ、市担当者からアドバイスを得てサービス向上に活かしている。また、市の介護相談員派遣事業も積極的に活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行している「あぐり通信」で入居者の状況等を報告すると共に、利用料の支払いが現金払いのため家族等が月1回必ず訪問することとなり、その折に個別の健康状態や預り金、職員の異動等について説明して理解をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の家族の訪問時には必ず意見や苦情について積極的に意見交換している。重要事項説明書にも苦情受付窓口や責任者が明記されており、法人の第三者委員も明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は開設当初に管理者が交代したのみであり、現在までに職員の異動はない。離職者は1名いたが、入居者及び家族に事後に説明して入居者のダメージを最小限に抑える努力をしている。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、第3木曜日に開催している法人内研修には全職員が参加している。勤務の都合上で参加できない場合は必ず伝達がなされている。また職員の経験年数に応じた研修や工作上必要な研修を計画的に受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、研修会等で意見交換をして交流を図っている。また今月設立された市地域密着型連絡協議会に積極的に参加し、意見交換をしてサービスの向上につなげたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、わかりやすく説明し、相談にのりながら、本人が安心、納得して生活できるよう本人の意思を尊重して支援している。入居間もない時期には家族のこまめな訪問を依頼し、本人に不安を与えぬよう特に目配りを重視した支援の配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを把握しながら職員と一緒にやるなど、お互いが支えあう関係を作ることを大切にして支援している。昔の行事食や地域の風習などを教わっている。訪問時にも料理の味付けや食事の準備・後片付けをしている入居者の姿が見られた。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者との関わりの中で声をかけ、入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出の困難な場合には家族の協力を得て意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議は全職員参加で行われており、夜勤等で参加できない職員は事前に「依頼書」に意見を書いて書面での参加をしている。それらの意見等を参考にして介護計画を作成し、職員間での共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に3ヶ月を基本としているが、心身の機能の低下などの状態を把握し、その都度見直している。見直しの際にはサービス担当者会議を必ず開催している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、また居宅療養管理指導も利用している。かかりつけ医への通院には職員が同行するなど柔軟な支援に努めている。		

グループホーム安暮里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。容体の変化時の対応については協力医療機関で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応及び看取りに関する指針」を作成し、家族に説明し同意をもらっている。特に看取りのあり方については職員間で話し合いを行い共有化が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重し、日々の声かけや対応について職員間で統一を図りながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めていない。入居者のできること（洗濯物たたみ、広告を利用した箱折りなど）に配慮しながら、入居者のペースに併せた支援を行っている。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながらユニット毎に職員が献立を作成し、調理をしている。訪問時にも入居者が一緒に盛り付けをしている姿が見られた。職員も入居者と同じものを食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に入浴時間が異なっている。基本的には午後であるが、入居者の好きな時間帯に入浴できるよう対応・支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやフロア内の清掃など職員と一緒にやっている。民謡を歌ったり、特大トランプを用いたゲーム等職員と一緒に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回、車での外出の機会を設けている。散歩等については近隣の遊歩道に出かけている。また食材の買い物等に職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。入居者を職員一人ひとりが見守りながら支援している。		

グループホーム安暮里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、隣接の施設と合同で総合防災訓練を年1回実施している。	○	近隣住民の参加協力や消防署の指導の下でホームの特性を踏まえた独自の防災訓練の実施を検討してみるなど、更なる充実に期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はユニット毎に職員が入居者の栄養バランスに気をつけながら作成しており、食事の残渣等から栄養摂取量を把握している。水分摂取については記録化が図られ、必要な量が摂取できるよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋造りの2ユニットで床暖房が敷設されている。居間・廊下に入居者手作りの雛人形や入居者の好きな歌詞が貼られていた。日差しはカーテンで調整している。訪問時には入居者と職員が穏やかに話をしており、家庭的な雰囲気づくりに配慮している様子がうかがえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には思い出の写真やテーブル・こたつ等入居者の馴染みのものが持ち込まれ、それぞれの好みに合わせた居室づくりを入居者と相談しながら支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。